

ピロリ菌感染は、胃潰瘍、胃ポリープ、胃がんの他、胃の悪性リンパ腫や血小板減少性紫斑病などの原因となりま

す。ピロリ菌は、免役力が未完全の5歳くらいまでに感染します。感染後、数週から数カ月で慢性胃炎を発症します。

日本人の場合、この後8割以上が「萎縮性胃炎」に進行します。さらに、このうち1%未満と多くはありませんが、「分化型胃がん」へと進行するとされています。なお、ピロリ菌感染が胃がんの原因の98%程度を占めると推定されています。

一般的な分化型胃がんは、萎縮性胃炎がベースとなりますが、粘膜の萎縮の程度が高

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

ックしています。

学校の健康診断で提出される検尿の残りを使って一次検査は行われ、陽性者には自宅に検便キットが送られます。便検体は佐賀大学医学部に送られ、二次検査が実施されます。二次検査で陽性となった生徒には、無料で除菌治療を受けられるクーポンが県から送られます。

たる234人に感染が確認されました。

これらの数字から、佐賀県の中学3年生のピロリ菌陽性率は、概算で4%程度と推計されます。なお、最終的に除菌を受けたのは、最終陽性者の73%にあたる170人でした。

かつて、日本人のピロリ菌陽性率は全体で5割、高齢者では8割にも達していました。しかし、幼児期の食物の衛生環境が改善したことで、ピロリ菌感染が激減し、今後、胃がん患者数も大きく減ると予想されます。

佐賀県方式には賛否ありますが、胃がん予防の一つの方向性を示していると思います。(東京大病院准教授)

ピロリ菌早期除菌で粘膜守る

いほど、胃がんが出来やすくなるのが分かっています。

逆に言えば、長期間のピロリ菌感染によって萎縮が進まないうちに除菌をした方が有効と考えられます。

こうした理解をもとに、胃がん予防のユニークな取り組みを行っている自治体が佐賀県です。保護者の同意のもと、すべての中学3年生を対象に

ピロリ菌の感染の有無をチェ

平成29年は、県下の中学3年生8519人のうち7230人が一次検査を受けまし

た。二次検査が必要とされた356人のうち、290人が実際に検査を受け、8割にあ